

琵琶湖に浮かぶ神秘の島「竹生島」。竹生島の歴史は古く、天平10年(738)に僧行基が草庵を結んだのが始まりと伝えられています。その後、天台宗の修行の場として発展し、観音菩薩への信仰も加わり、武家、庶民を問わず厚い信仰を集める島となりました。

竹生島といえば弁才天信仰です。弁才天は元はインドのサラスバティー河を神格化したもので、水の神であり、さらさらと流れる水音から、技芸の神としても信仰されます。

弁才天の尊容には、腕が2本で楽器を奏する二臂像と、腕が八本で様々な持物を持つ八臂像の二つの系譜があります。この内、竹生島の弁才天は、八臂のお姿をしています

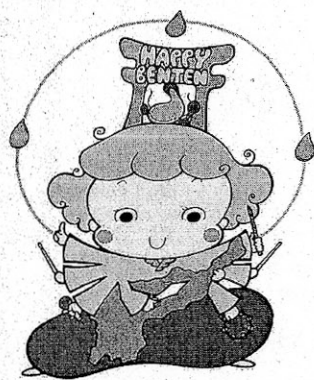
が、他の八臂弁才天とは大きく異なります。その違いは、頭上に老人の頭を付けた白蛇を乗せているところです。この老人の頭を持つ白蛇は「宇賀神」とされています。宇賀神とは宇迦御魂命と同一視される神で、五穀や食を司るとされ、蛇体は、この神が水と深い関わりを持っていることを示しています。この宇賀神と弁才天が合体したのが、竹生島弁才天なのです。水、五穀、食、すなわち命を司る最強の神が竹生島弁才天なのかもしれません。この八臂の竹生島弁才天は、中世以来「蓮華会」と呼ばれる祭事

天 才 弁 才 島 生 竹

に際して、毎年新調されるといふ伝統があります。このため、現在の、竹生島宝蔵寺の弁才天堂には、おびただしい数の弁才天像が伝来しているという事です。

さて、読者の方々の周りに、弁才天を祀る神社や祠はありませんか。もしあったらその周りをよく観察してください。

い。多くの場合、池が掘られ、その中に島を浮かべ、その島の上に弁才天が祀られているのではないのでしょうか。そう、池は琵琶湖、島は竹生島を表現しています。このような弁才天の祀り方を「琵琶湖型弁才天」と呼ぶことにします。琵琶湖型弁才天は不思議なことに天台宗系の寺院や、明治の神仏分離令



「はっぴいべんてん」のイラスト。こんな神様はいませんが、イメージするとこんな感じ? (財団法人滋賀県文化財保護協会作成)

以前に、天台宗との関わりが深かった神社等に、多く見ることができま。天台宗と琵琶湖の深い関係は、この連載でも何度か紹介しているところですが、ここにも、琵琶湖

の神である弁才天信仰の広まりに、天台宗が大きな役割を果たしていた様子を窺うことができます。

琵琶湖型弁才天の分布は県内にとどまるものではありません。例えば平安京の水祭祀の中心である神苑苑も琵琶湖型の弁才天です。また、江戸の護りとして造られた不忍池もまた、琵琶湖型弁才天です。どうやら日本人は、水と命の神である弁才天を祀るとき、「琵琶湖」が必要であると、意識の中に刷り込まれているのかもしれない。

竹生島弁才天は八臂の弁才天です。竹生島の弁才天は祈る者すべてに幸福をもたらしてくれます。八臂の弁才天。八臂弁天、変じて、「はっぴいべんてん」。こんな神様もいらっしやっても良いのではないのでしょうか。筆者の守り神です。

天 台 宗 と と も に 信 仰 拡 大

(財団法人滋賀県文化財保護協会 大沼芳幸)